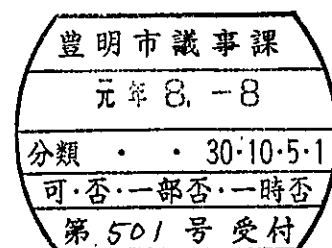


<参考>様式第2号

令和元年8月8日

豊明市議会議長 殿



行政等視察報告書

議員名 清水 義昭

令和元年度豊明市議会政務活動費にて下記のとおり行政等を視察しましたので報告します。

年 月 日	視察先	視察項目及び成果等
令和元年7月31日	栃木県那須塩原市	・小中一貫教育について
8月1日	神奈川県海老名市	・学校プールの屋内温水プールへの移行について
		※いずれも詳細は別添報告書による

(注) 別紙添付も可能とします。

(注) 本報告書は5年間公開します。

視察報告書

2019年8月8日

豊明市議会議員 清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2019年7月31日

場所：栃木県那須塩原市

項目：小中一貫教育について

概要

施設分離および施設一体型による小学生、中学生の一貫教育を行い、不登校児童生徒数の減少、学力・社会力の向上を狙う。

詳細

2011年に小中一貫教育基本方針を策定し、3年をかけ5中学校区で研究指定。2015年に残りの5中学校区で試行を開始。2016年に小中一貫教育実施計画を策定し、全校区で小中一貫教育を全面实施。2017年に施設一体型の義務教育学校を開校したことで、現在では、市内全10の中学校区のうち1中学校区は施設一体型、残りは施設分離型にて小中一貫教育を行っている。

不登校児童生徒数が全国平均の約2倍と、極めて多かったことが導入に至った最も大きな理由。特に中学1年生で多く、小から中に進級する際のギャップを解消する必要があった。現在では、不登校児童生徒数が全国平均程度にまで減少し、その効果は確実に表れている。

学力面においては、現在のところ数字での成果こそ表れてはいないが、例えば外国語教育や、算数を数学へつなぐことなど、児童生徒に壁を感じさせない授業を展開することができる。

社会面においては、上級生が下級生の面倒をみたりすることで各学年が生き生きとし、心の育成を推し進められている。

課題は、小中教員の話し合いの時間を合わせるのが難しいことや、6年生がリーダーシップを取りにくいということ。

感想

本市においても児童生徒数の減少や公共施設の老朽化等を考慮すると、徐々に研究を進めていかなければならないテーマであり、とても参考になった。今回学んだことを考慮すると、最大の効果を得るには、施設一体型が有利であると言えることから、引き続き調査を行い、必要な時期を見定めたい。提案を視野に入れたい。

視察報告書

2019年8月8日

豊明市議会議員 清水 義昭

題目：清澄会派視察

日付：2019年8月1日

場所：神奈川県海老名市

項目：学校プールの屋内温水プールへの移行について

概要

市内公立小中学校のプールを廃止し、その施設、敷地を他で活用し、小学校および小中支援学級においては、市内の屋内プールにて水泳の授業を行っている。

詳細

2006年、他市での事故により、学校プールの安全性が問われたことや、小中学校のプールが老朽化していること、さらに気候に左右され水泳授業の実施が困難な年度が発生していること等から検討を行い徐々に学校プール廃止を開始した。

市内には小学校13校、中学校6校があるが、2007年度より小2校、中1校で学校プールを廃止し、市営温水プールでの水泳授業を開始。徐々に廃止校を増やし、2011年度には市内全小中学校が市営温水プールで水泳授業を行うこととなった。

学校プール廃止について、当初は議会審議においてベテラン議員より慎重な声があったが、学校プールの維持にかかる費用や教員による管理が不要であること、児童や保護者からの評判も上々であること等から現在では落ち着いている。

学校から屋内プールまでの移動は、バスを借上げ利用している。移動にかかる時間やバス借上げ料等を考慮し、複数の学級による合同授業とすることや、2単元連続で水泳授業を行うなど工夫を凝らしている。

中学校に関しては、教科担任制であるため他授業との時間調整が難しく、2015年度より水泳授業を廃止したため、現在では小学校と小中支援学級のみが行っている。

学校プール跡施設は、芝生広場やテニスコート、バスケットボールコート、大型防災備蓄倉庫等となっている他、地域が釣り堀として運営するなど活用している。

課題は中学校の水泳授業ができなくなってしまったこと。

感想

本市においても施設の老朽化や水泳授業の充実が課題であることから、とても参考になった。特に跡施設を利用した釣り堀運営はアイデアが面白く、このような活用ができれば地域住民の集い場ともなり得るため、時期を見て提案していきたい。